



美術家 文献目録

日本篇 2011-2025

凡 例

1. 収録期間と範囲

2011 年 1 月～2025 年 12 月に刊行された日本語の図書・雑誌・紀要類を対象に、古代から現代までの日本の美術家 3,997 人に関する人物文献（伝記・日記・回想・人物論・作品論・対談・インタビュー・年譜・作品リスト等）27,258 件を収録した。人物に関しては、美術作品を製作した人を中心として、画家、彫刻家、陶芸家、工芸家、写真家、デザイナー、建築家、漫画家、アニメ作家、研究者、評論家などを幅広く選定した。

2. 見出し語

- (1) 本名、旧名、別名（号、筆名、通称など）のうち、一般に広く知られているものを見出しとした。また、必要に応じ、不採用の名から参照を立てた。
- (2) 見出し語のもとに、人物の生年・没年・簡単なプロフィールを付した。

3. 排見出しの排列

- (1) 見出し人名の読みの五十音順とした。
- (2) 濁音は清音扱いとし、ヂ→ジ、ヅ→ズとした。拗音・促音は直音扱い、長音符（音引き）は無視した。
- (3) 世系などがある場合は必要に応じて補記した。

4. 文献の排列と記載の形式

- (1) 排 列
見出し語のもとに、【図 書】【雑 誌】の順とし、各々の下は刊行年月順とした
- (2) 記載の形式
見出し語のもとに、人物の生年・没年・簡単なプロフィールを付した。

各々の文献は、下記の原則によって記載した。

1) 図書

◇書名／副書名／巻次／（著編者等）／出版者／刊行年月／ページ数
または冊数／（叢書名）

例）◇現代日本建築家列伝―社会といかに関わってきたか（五十嵐太郎 著）河出書房新社 2011.10 284p（河出ブックス）

なお、論集・図書の一部分については以下のように記載した。

◇論題／（著者）／『書名』／（著編者等）／出版者／刊行年月／掲載ページ

例）◇志村立美（志村立美述）『小松左京全集完全版』（小松左京著）
城西国際大学出版会 2017.4 p178-196

2) 雑誌の論文

◇論題／（著編者）／「誌名」／発行者／巻（号）／発行年月／掲載ページ

例）◇底からの声：鯉江良二 その人（特集 やきもの随筆）（澤田美恵子）
「陶説」日本陶磁協会（761）2016.8 p24～26

5. 参考資料

主に以下のデータベースを参考にした。

JAPAN/MARC

BookPlus

TRC MARC

MagazinePlus

人名目次

【あ】

鯉喉	1
相笠 昌義	1
会津 八一	1
会田 誠	4
相田 みつを	5
相原 求一朗	5
相見 香雨	5
鏡光	5
青池 保子	6
亜欧堂 田善	6
青木 弘司	6
青木 香流	6
青木 繁	6
青木 茂	7
青木 夙夜	8
青木 淳	8
青木 太一	8
青木 敏郎	8
青木 野枝	8
青木 美紅	9
青木 木米	9
青木 雄二	9
青木 竜山	9
青葉 益輝	9
青柳 喜兵衛	9
青柳 正規	9
青山 剛昌	10
青山 杉雨	10
青山 二郎	11
青山 裕企	11
赤木 曠児郎	11
赤木 範陸	11
赤坂 アカ	11
明石 海人	12
赤瀬川 原平	12
赤塚 不二夫	13
赤塚 祐二	14
暁 鐘成	14
朱戸 アオ	14
赤羽 雲庭	14
赤羽 末吉	14
赤松 佳珠子	14
赤松 俊子	14
⇒丸木 俊(まるき・とし)を見よ	
秋岡 美帆	15
秋岡 芳夫	15
秋田 道夫	15
秋野 亥左半	15
秋野 不矩	15
秋本 治	15
秋元 雄史	15
秋山 庄太郎	16
秋山 祐徳太子	16
秋山 陽	16
浅井 和春	16
朝井 閑右衛門	16
浅井 慎平	16
浅井 忠	16
あさい ますお	17
浅川 巧	17
浅川 伯教	18
朝倉 摂	18
朝倉 文夫	19
麻田 浩	19
浅田 政志	19
浅野 陽	19
浅野 いにお	19
浅野 清	19
浅野 竹二	19
浅野 孟府	20
浅野 弥衛	20
浅葉 克己	20
浅見 貴子	20
浅山 芦国	20
浅利 幸男	20
芦沢 竜一	20
芦田 淳	20
芦原 義信	20
あしべ ゆうほ	20
安次嶺 金正	21
飛鳥井 雅親	21
飛鳥井 雅経	21
飛鳥井 雅康	21
あずま きよひこ	21
東 孝光	21
東 東洋	21
吾妻 ひでお	21
東 利恵	21
畦地 梅太郎	22
麻生 三郎	22
麻生 豊	22
与 勇輝	22
安宅 研太郎	22
足立 源一郎	22
あだち 充	22
安谷屋 正義	23
跡見 花咲	23
跡見 玉枝	23
穴山 勝堂	24
安孫子 素雄	
⇒藤子 不二雄A(ふじこ・ふじおえい)を見よ	
阿部 金剛	24
アベ ツカサ	24
阿部 展也	24
阿部 仁史	24
あべ 弘士	24
阿部 美樹志	25
安倍 夜郎	25
安倍 吉俊	25
安部 良	25
天国	25
尼子 騷兵衛	25
尼崎 博正	25
雨田 光平	25
天沼 俊一	25
天野 可淡	26
天野 純治	26
天野 太郎	26
天野 喜孝	26
網野 慎昭	26
雨宮 淳	26
雨宮 敬子	26
雨宮 治郎	26
鮎屋 法水	26
新井 薫子	
⇒KAORUKO(かおるこ)を見よ	
荒井 寛方	26
新井 淳一	27
新井 卓	27
荒井 拓州	27
新居 千秋	27
新井 英樹	27
新井 光子	
⇒八島 光(やしま・みつ)を見よ	
荒井 良二	27
荒川 医	27
荒川 修作	28
荒川 豊蔵	28
荒川 弘	29
荒城 季夫	29
荒木 珠奈	29
荒木 信雄	29
荒木 経惟	29
荒木 飛呂彦	31
荒木 美香	31
有島 生馬	31
有栖川宮 織仁	32
有栖川宮 幟仁	32
有栖川宮 職仁	32
有地 好登	32
有道 佐一	32
有元 利夫	32
有吉 京子	32
淡島 寒月	32
淡島 椿岳	32
栗津 潔	33
栗田 純司	33
栗田口 吉光	33
安斎 肇	33
安西 水丸	33
安藤 更生	33
安東 直	34
安東 聖空	34
安藤 忠雄	34
安藤 広重	
⇒歌川 広重(初代)(うたがわ・ひろしげ)を見よ	
安藤 雅信	35
安藤 緑山	35
庵野 秀明	35
安野 光雅	36
安野 モヨコ	38

【い】

飯沢 耕太郎	39
飯島 虚心	39
飯島 春敬	39
飯島 照仁	39
飯塚 桃葉(初代)	39
飯田 善國	39
飯田 善彦	39
飯沼 安裕	40

人名目次

いのうえ

飯野 和好	40
飯山 由貴	40
伊上 凡骨	40
五十嵐 喜三郎	40
五十嵐 淳	40
五十嵐 俊明	40
五十嵐 大介	40
五十嵐 威暢	41
五十嵐 直雄	41
五十嵐 太郎	41
いがらし みきお	41
いがらし ゆみこ	41
井川 惺亮	41
いぐえみ 綾	41
居串 佳一	42
生島 浩	42
生田 花朝	42
幾原 邦彦	42
池上 秀敏	43
池上 英洋	43
池上 遼一	43
池口 史子	43
池田 英泉	
⇒溪斎 英泉(けいさい・えいせん)を見よ	
池田 孤邨	44
池田 蕉園	44
池田 清明	44
池田 武邦	44
池田 龍雄	44
池田 俊彦	44
池田 満寿夫	44
池田 学	45
池田 靖史	45
池田 遼邨	45
池田 亮司	45
池田 良二	46
池田 理代子	46
池永 康辰	46
池 玉瀾	46
池 大雅	46
池原 謙一郎	48
池原 義郎	48
池辺 陽	48
イケムラ レイコ	48
井坂 幸恵	48
伊坂 芳太良	48
諫山 創	48
石井 修	49
石井 一男	49
石井 幸之助	49
石井 光樹	49
石井 鶴三	49
石井 柏亭	49
いしい ひさいち	49
石井 幹子	49
石井 林響	50
石内 都	50
石岡 瑛子	50
石踊 達哉	50
石垣 昭子	50
石垣 栄太郎	50
石上 純也	51
石川 九楊	51
石川 欽一郎	51
石川 賢	51
石川 静	51
いしかわ じゅん	52
石川 丈山	52
石川 大浪	52
石川 直樹	52
石川 文洋	53
石川 真生	53
石川 竜一	53
石黒 敬七	53
石黒 賢一郎	53
石黒 宗磨	54
石黒 由紀	54
井茂 圭洞	54
石子 順造	54
石崎 光瑠	54
石津 謙介	55
石塚 真一	55
石塚 千尋	55
石田 淳一	55
石田 スイ	55
石田 尚志	55
石田 拓実	55
石田 徹也	56
石田 敏明	56
石田 有作	56
石田 幽汀	56
石飛 亮	56
石鍋 真澄	56
石ノ森 章太郎	56
石橋 素	57
石橋 和訓	57
石原 健也	57
石原 豪人	57
石原 嘉人	57
石村 大輔	58
石母田 諭	58
石本 喜久治	58
石本 正	58
石元 泰博	58
石山 修武	58
井津 建郎	58
出江 潤	58
泉 幸甫	58
泉 茂	59
泉 昭二	59
泉 太郎	59
泉 晴紀	59
いせ ひでこ	59
伊勢崎 淳	59
伊勢田 理沙	59
磯井 如真	59
磯江 毅	59
磯崎 新	59
磯田 湖龍斎	61
磯部 光太郎	61
磯部 章丘	61
磯辺 行久	62
磯見 輝夫	62
磯矢 阿伎良	62
板 祐生	62
板垣 恵介	62
板垣 鷹穂	62
板倉 鼎	62
板倉 須美子	62
伊谷 賢蔵	63
伊丹 潤	63
伊丹 三樹彦	63
板谷 波山	63
市浦 健	64
市川 孝典	64
市川 正三	64
市川 春子	64
市河 米庵	64
市川 美加	64
一条 成美	64
一条 ゆかり	65
一ノ瀬 泰造	65
一原 有徳	65
市丸 貴裕	65
一勇斎 国芳	
⇒歌川 国芳(うたがわ・くによし)を見よ	
一流斎 貞俊	65
樹 なつみ	65
一休 宗純	65
一山 一寧	67
佚山 黙隠	67
⇒英一蝶(はなぶさ・いっちょう)を見よ	
出口 雄樹	68
伊藤 薫朔	68
伊藤 喜三郎	68
伊藤 熊太郎	68
伊藤 公象	68
伊藤 暁	68
伊藤 若冲	68
伊藤 潤二	72
伊藤 順三	72
伊藤 小坡	73
伊東 深水	73
伊藤 晴雨	73
伊藤 存	73
伊藤 孝紀	73
伊藤 隆康	73
伊藤 維	73
伊東 忠太	73
伊東 陶山(初代)	74
伊東 豊雄	74
伊藤 延男	76
伊藤 彦造	76
伊藤 秀人	76
いとう ひろし	76
伊藤 博之	76
伊藤 平左エ門(12代)	
	77
伊藤 恭行	77
伊藤 慶二	77
伊藤 理佐	77
伊藤 廉	77
糸園 和三郎	77
伊奈 長三	78
伊奈 信男	78
稲賀 繁美	78
稲垣 淳哉	78
稲垣 稔次郎	78
いなだ 詩穂	78
稲葉 春生	78
稲山 正弘	78
乾 久美子	78
乾 由明	79
犬飼 恭平	79
犬塚 勉	79
井上 岳	79
井上 和雄	80
井上 勝江	80
井上 公之	80
井上 孝治	80
井上 春洋	80
井上 信次郎	80

牛腸 茂雄 こちよう・しげお

1946 (昭和21) 年～1983 (昭和58) 年。昭和期の写真家。

【図 書】

◇時代を写した写真家100人の肖像 上巻 (鳥原学著) 玄光社 2018.6 431p

◇ありのままのイメージスナップ美学と日本写真史 (甲斐義明著) 東京大学出版会 2021.6 335,15p

◇社会を撮る！ー7人のフォトグラファー (三浦雅弘著) 丸善プラネット, 丸善出版 (発売) 2022.4 152p

【雑 誌】

◇牛腸茂雄の二つの時間ー【SELF AND OTHERS】「見慣れた街の中で」の構成とその意図 (荒井直美) 「新潟市美術館・新潟市新津美術館研究紀要」 新潟市美術館 (3) 2015.3 p3～11

◇資料翻刻・牛腸茂雄【SELF AND OTHERS製版指示】全59葉 (荒井直美編) 「新潟市美術館・新潟市新津美術館研究紀要」 新潟市美術館 (3) 2015.3 p12～41

◇写真芸術の世界 「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容：瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄 「版画芸術」 阿部出版 51 (4) 通号199 2023.春 p100～105

◇「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容 瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄 展 (佐々木悠介) 「比較文学研究」 すずさわ書店 (109) 2024.1 p139～142

虎徹 こてつ

1605 (慶長10) 年～1678 (延宝6) 年。江戸時代前期の刀工。

【図 書】

◇名刀虎徹 (小笠原信夫著) 文芸春秋 2013.5 219p (文春新書)

◇長曾祢虎徹新考 復刻版 (小笠原信夫著) 雄山閣 2025.10 351p

後藤 一乗 ごとう・いちじょう

1791 (寛政3) 年～1876 (明治9) 年。江戸時代後期～明治期の装剣金工。

【雑 誌】

◇金工の書画：光興・一乗・夏雄 (特集 光村コレクションの諸相) (松原茂) 「此君：根津美術館紀要」 根津美術館 (10) 2018 p12～13,93～109

◇新発見・後藤一乗の小柄と船田一琴について (福士繁雄) 「刀剣美術」 日本美術刀剣保存協会 (769) 2021.2 p12～14

◇幕末の名人金工 後藤一乗 (大橋博) 「刀剣観想」 日本刀剣保存会本部事務局 (772) 2023.7 p6～12

後藤 覺榮 ごとう・かくじょう

1589 (天正17) 年～1656 (明暦2) 年。安土桃山時代・江戸時代前期の装剣金工。

【図 書】

◇隆峯を越え 百万石文化 創成の群像 (横山方子著) 北国新聞社 2018.9 191p

後藤 敬一郎 ごとう・けいいちろう

1918 (大正7) 年～2004 (平成16) 年。昭和・平成期の写真家。

【図 書】

◇占領初期の名古屋ー「後藤敬一郎関係写真資料」調査報告 (阿部英樹著) 勁草書房 2023.2 4,364p (中京大学経済学研究叢書)

◇占領初期の名古屋ー「後藤敬一郎関係写真資料」調査報告 (阿部英樹著) 中京大学経済学部 2023.2 4,364p (中

大学経済学研究叢書)

【雑 誌】

◇写真家・後藤敬一郎の活動についての研究 (「美術に関する調査研究の助成」研究報告ー2020年度助成) (副田一穂) 「鹿島美術財団年報」 鹿島美術財団 (38) (別冊) 2020年度 p172～183

後藤 慶二 ごとう・けいじ

1883 (明治16) 年～1919 (大正8) 年。明治・大正期の建築家、建築学者、司法省技師。構造学に優れ、デザイン上でも卓越した能力を持つ。建築論者として先駆的役割を果たす。

【図 書】

◇建築家と小説家ー近代文学の住まい (若山滋著) 彰国社 2013.2 259p

【雑 誌】

◇後藤慶二設計の宮島ホテルの3DCG復元 (鈴木彩花, 水田丞) 「日本建築学会中国支部研究報告集」 日本建築学会中国支部 44 2021.3.7 p917～920

◇建築は、何にくはたらくか：後藤慶二・村野藤吾・長谷川壺 近代合理主義が置き去りにした近代 (軀体とアウラ) (本橋仁) 「建築雑誌」 日本建築学会 140 (1805) 2025.9 p12～15

後藤 貞行 ごとう・さだゆき

1849 (嘉永2) 年～1903 (明治36) 年。明治期の彫刻家。東京美術学校教授。

【雑 誌】

◇圖版 高村光雲・後藤貞行ほか 西郷隆盛像 (特輯 明治の彫刻) (恵美千鶴子) 「國華」 國華社, 朝日新聞出版 (発売) 120 (1) 通号1426 2014.8 p39～41,9

後藤 新治 ごとう・しんじ

1950 (昭和25) 年～。昭和～令和期の美術評論家。西南学院大学国際文化学部名誉教授。

【図 書】

◇絵描きと画材屋ー洋画家・野見山曉治と山本文房堂・的野恭一の五十年 (井口幸久聞き手) 忘幸社 2016.10 158p

【雑 誌】

◇後藤新治教授略歴および研究業績 (中島和男教授 邊土名朝邦教授 後藤新治教授 古稀記念号) 「西南学院大学国際文化論集」 西南学院大学学術研究所 34 (2) 2020.3 p19～48

◇祝辞 (中島和男教授 邊土名朝邦教授 後藤新治教授 古稀記念号) (G.W.パークレー) 「西南学院大学国際文化論集」 西南学院大学学術研究所 34 (2) 2020.3 p49～51

後藤 純男 ごとう・すみお

1930 (昭和5) 年～2016 (平成28) 年。昭和・平成期の日本画家。東京藝術大学名誉教授。

【雑 誌】

◇日野原重明のアートで生き生き (第94回) 後藤純男展を見て (日野原重明) 「月刊美術」 サン・アート 38 (3) 通号438 2012.3 p66～68

後藤 正治 ごとう・まさはる

1946 (昭和21) 年～2021 (令和3) 年。昭和～令和期の写真家。

【図 書】

◇後藤正治ノンフィクション集 第11巻 (後藤正治著) プレーンセンター 2024.3 1051p

【雑 誌】

◇私とナンバー 〔2〕 後藤正治ー「スポーツを書くこと、読むこと」(後藤正治) 「Sports graphic number」 文芸春秋 41 (7) 通号1000 2020.4.16 p63

吾峠 呼世晴 ごとうげ・こよはる

平成・令和期の漫画家。

【図 書】

◇「鬼滅の刃」とエンパシーの帝国 【批評と生きることー「十番目のミューズ」の未来」(片岡大右著) 晶文社 2023.11 p175

【雑 誌】

◇The Affordances of Omake in Gotouge Koyoharu's Kimetsu no Yaiba (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーBetween Manga and Anime) (Bryan Hikari Hartzheim) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p159～170

◇More Mangaesque than the Manga: “Cartooning” in the Kimetsu no Yaiba Anime (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーBetween Manga and Anime) (Jaqueline Berndt) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p171～178

◇Colorful Execution: Conventionality and Transnationality in Kimetsu no Yaiba (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーExpanded Context) (Stevie Suan) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p179～191

◇Kagura Dance: The Musicality of Ritualized Dance as Historical Imaginary in Kimetsu no Yaiba and Kimi no Na wa (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーExpanded Context) (Stacey Jocoy) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p192～202

◇Where Is the Sacred Site? Research Notes on Contents Tourism Induced by Kimetsu no Yaiba (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーAlternative Voices) (Siyuan Li) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p203～211

◇Binding Threads: The Emotional Structure of Attachment in the Animated Series Demon Slayer (Special Feature: Special Section on Demon Slayer (鬼滅の刃)ーAlternative Voices) (Catherine Regina Borlaza) 「Transcommunication」 早稲田大学大学院国際コミュニケーション研究科 8 (2) 2021.Fall p212～233

◇残酷な「異形化」：「ジョジョの奇妙な冒険」虹村兄弟と「鬼滅の刃」不死川兄弟の葛藤 (植明子) 「神戸大学国際文化学研究推進センター研究報告書」 神戸大学国際文化学研究推進センター 2021年度 p72～86

◇大東文化大学社会学研究所主催・大東文化大学社会学会共催 座談会 (オンライン開催) 【「鬼滅の刃」で読み解く現代日本：描かれる社会と登場人物の分析から教育への応用まで (家島明彦, 井島ワッシュバートリック, 井島由佳, 中野紀和) 「社会学研究所紀要」 大東文化大学社会学研究所 (2) 2021.3 p1～31

◇人と想像力：「鬼滅の刃」の死生観 (橋元志保) 「総合研究」 ノースアジア大学総合研究センター (9) 2021.3

p115～127

◇「鬼滅の刃」における〈怪物的なもの〉：資本主義の隠喩としての人喰い怪物 (大勝裕史) 「東京経営短期大学紀要」 創志学園東京経営短期大学 29 2021.3 p105～111

◇「鬼滅の刃」が生じさせる新たな聖地：「境界の融解」と「移動」に注目した考察 (河島一仁教授退職記念論集) (神田孝治) 「立命館文学」 立命館大学人文学会 (672) 2021.3 p913～891

◇「鬼滅の刃」とエンパシーの帝国 (創刊75周年記念号 (2)) (片岡大右) 「群像」 講談社 76 (11) 2021.11 p210～228

◇日本アニメ産業におけるメディアミックスの進展と最近の動向：「鬼滅の刃」のメディア戦略とプロモーションに着目して (葉口英子) 「ノートルダム清心女子大学紀要. 人間生活学・児童学・食品栄養学編」 ノートルダム清心女子大学 46 (1) 通号67 2022 p68～86

◇回帰しようとする日本社会：「82年生まれ, キム・ジョン」への共感と「鬼滅の刃」の人気から (廣岡守穂先生古稀記念論文集) (劉銀災) 「法学新報」 中央大学法学院, 中央大学出版部 (発売) 128 (7・8) 2022.2 p833～850

◇「鬼滅の刃」から見た現代日本人の死後観 (死生学の拡がり) (石井研士) 「死生学年報」 ヨベル 2023 p51～68

◇吾峠呼世晴「鬼滅の刃」に関する考察：「文学研究」を活かす試み (大石紗都子) 「武蔵野美術大学研究紀要」 武蔵野美術大学 (54) 2023 p89～102

◇「鬼滅の刃」と柳田国男 (松居竜五) 「図書」 岩波書店 (892) 2023.4 p10～13

◇「古事記」受容から見た吾峠呼世晴「鬼滅の刃」：伝承の非連続性と共同体性をめぐって (大石紗都子) 「武蔵野美術大学研究紀要」 武蔵野美術大学 (55) 2024 p107～120

◇講演 榎子子はモヨ子、モヨ子はミヨ子：新刊「鬼滅の刃はドラマ・マガラ」より (第11回 研究大会の記録) (梅乃木彬夫) 「民ヲ親ニス：「夢野久作と杉山3代研究会」会報」 「夢野久作と杉山3代研究会」事務局, 図書出版不知火書房 (発売) 11 2025 p69～96

◇現在のノスタルジーから非記憶的な未来へ：F・ジェイムソンはいかにして「鬼滅の刃」と「進撃の巨人」と「呪術廻戦」を論じるべきか? (野尻英一) 「社会理論研究」千書房, JRC (発売) (25) 2025.1 p5～23

五渡亭 国貞 ごとうてい・くにさだ

⇒歌川 国貞 (初代) (うたがわ・くにさだ) を見よ

後鳥羽天皇 ごとばてんのう

1180 (治承4) 年～1239 (延応元) 年。鎌倉時代前期の天皇。後白河法皇の死後、譲位して上皇となり院政を継承。のち鎌倉幕府と対立して隠岐に配流された。歌人としてもすぐれ「新古今和歌集」を撰上させた。また、作刀に参加して「菊花紋」を刻んだ「菊御作」「菊一文字」を残したほか、国宝「後鳥羽天皇筆 御手印置文」などすぐれた書を残した。

【図 書】

◇歌が権力の象徴になるときー屏風歌・障子歌の世界 (渡辺裕美子著) 角川学芸出版, 角川グループパブリッシング (発売) 2011.1 238p (角川叢書)

◇天皇と中世の武家 (河内祐輔, 新田一郎著) 講談社 2011.3 382p (天皇の歴史)

◇日本の10大天皇 (高森明勲著) 幻冬舎 2011.5 449p (幻冬舎新書)

◇樹液そして果実 (丸谷オー著) 集英社 2011.7 426p

◇天皇と芸能 (渡部泰明, 阿部泰郎, 鈴木健一, 松沢克行著)

藤島 武二 ふじしま・たけじ

1867(慶応3)年～1943(昭和18)年。明治～昭和期の洋画家。東京美術学校教授。「天平の面影」など浪漫的内容の作品を発表。のち「東海旭光」などを制作。

【図 書】

◇青木繁—世紀末美術との邂逅(高橋沙希著) 求竜堂 2015.3 286p(求竜堂美術選書)

◇描き文字のデザイナー—日本を代表する45人の「描き文字」仕事(雪朱里著,大貫伸樹監修) グラフィック社 2017.4 271p

◇女性像が映す日本—合わせ鏡の中の自画像(児島薫著) ブリュッケ,星雲社(発売) 2019.4 391p

◇洋画家の美術史(ナカムラクニオ著) 光文社 2021.1 240p(光文社新書)

◇印象派とタイガ王—石橋正二郎のプリヂストン美術館(林洋著) 現代書館 2022.4 246p

【雑 誌】

◇圖版 藤島武二 天平の面影(特輯 石橋コレクション 日本近代洋畫篇)(佐藤道信)「國華」 國華社,朝日新聞出版(発売) 119(12)通号1425 2014.7 p46～48,11

◇藤島武二による中国服の女性像について:「紋菊眉」を中心に(児島薫)「実践女子大学美術史学」 実践美術史学会(29) 2015.3 p1～20

◇藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(1) 津時代の動静を中心に(児島薫)「美術研究」 国立文化財機構東京文化財研究所(415) 2015.3 p217～220

◇黒田清輝、久米桂一郎宛 藤島武二書簡(1)(児島薫)「美術研究」 国立文化財機構東京文化財研究所(415) 2015.3 p221～258

◇黒田清輝、久米桂一郎宛 藤島武二書簡(2)「美術研究」 国立文化財機構東京文化財研究所(416) 2015.10 p17～48

◇藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(3) 留学前後の動静を中心に(児島薫)「美術研究」 国立文化財機構東京文化財研究所(417) 2016.1 p156～201

◇黒田清輝、久米桂一郎宛 藤島武二書簡(3) 承前「美術研究」 国立文化財機構東京文化財研究所(418) 2016.3 p283～295

◇藤島武二から児島虎次郎宛書簡にみる師弟の交流:昭和期を中心に(児島薫)「実践女子大学文学部紀要」 実践女子大学文学部紀要委員会 59 2017 p45～59

◇児島虎次郎宛藤島武二書簡について:翻刻と解説(児島薫)「実践女子大学美術史学」 実践美術史学会(31) 2017.3 p21～45

◇藤島武二「天平の面影」に見る筈篋について(平出実乃里)「文化財学報」 奈良大学文学部文化財学科 37 2019.3 p15～26

◇【明星】時代の藤島武二:ミュシャとの関わりと「画稿帖」について(児島薫)「実践女子大学美術史学」 実践美術史学会(34) 2020.3 p81～97

◇藤島武二《東洋振り》:楳図のなかの中国、西洋、関東大震災(貝塚健)「公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館研究紀要」 石橋財団アーティゾン美術館(2) 2021 p54～75

◇太陽と海:藤島武二の海景画と近代日本の海事思想(火と水)(金子智美)「美術史研究」 早稲田大学美術史学会 59 2021 p121～130

◇笠間日動美術館所蔵藤島武二《画稿帖》について:焼失した《桜翁》の下部を中心に(岡部昌幸,塚野卓郎)「帝京史学」 帝京大学文学部史学科(37) 2022.2 p157～211

◇藤島武二《画稿帖》にみる西洋画学習について(仲町啓子教授 退職記念号)(児島薫)「実践女子大学美術史学」 実践美術史学会(36) 2022.3 p51～65

◇本学所蔵の藤島武二による模写作品について(金子智美)「東京藝術大学大学美術館年報」 東京藝術大学大学美術館 2023年度 p12～44

◇藤島武二が構想した「東アジア的」な女性像について(児島薫)「実践女子大学文学部紀要」 実践女子大学文学部紀要委員会 65 2023 p51～62

◇藤島武二《黒扇》と、マネ、ベラスケス(特集 研究寄与:石橋財団の日本近代美術)(貝塚健)「近代画説:明治美術学会誌」 明治美術学会(33) 2024 p47～53

藤城 清治 ふじしろ・せいじ

1924(大正13)年～。昭和～令和期の画家,影絵作家。テレビ番組や影絵映画,影絵劇の制作などで活躍。著書に「影絵はひとりぼっち」「天の笛」など。

【図 書】

◇家の服屋書 文化人・芸術家篇(斎藤明美著) キネマ旬報社 2011.7 392p

◇影絵作家藤城清治—100歳おめでとう 暮らしの手帖社 2024.11 168p

【雑 誌】

◇【絵本マボロシの鳥】藤城清治インタビュー(davinci pick up)(吉田大助取材・文)「ダ・ヴィンチ」メディアファクトリー 18(7) 2011.7 p54～55

◇「藤城清治 震災画の金字塔」 榎木野衣(特集 世界が驚愕した にっぽんの美術)(榎木野衣)「月刊アートコレクションズ」 生活の友社 7(3)(No.60) 2014.3

藤代 冥砂 ふじしろ・めいさ

1967(昭和42)年～。昭和～令和期の写真家,小説家。藤代写真事務所代表取締役。

【図 書】

◇彼らが写真を手にした切実さを—「日本写真」の50年(大竹昭子著) 平凡社 2011.6 299p

【雑 誌】

◇藤代冥砂—「光と色がそこにあった」(INTERVIEW)(藤代冥砂写真・文,Go Sugawaratext,Eisuke Asakaphotography)「Switch」スイッチ・パブリッシング 34(8)通号317 2016.8 p140～145

◇TWO ANGLES [7] —藤代冥砂×岩澤高雄(藤代冥砂,岩澤高雄,Go Sugawara text)「SWITCH」スイッチ・パブリッシング 43(2)通号419Avery 2025.2 p66～71

藤田 和日郎 ふじた・かずひろ

1964(昭和39)年～。昭和～令和期の漫画家。作品に「うしおととら」「からくりサーカス」など。

【図 書】

◇藤田和日郎本(藤田和日郎著) 小学館 2017.5 223p(SHONEN SUNDAY COMICS SPECIAL)

◇失われた娯楽を求めて—極西マンガ論(仲俣亮生著) 駒草出版 2018.12 155p

藤田 慎之輔 ふじた・しんのすけ

1985(昭和60)年～。平成・令和期の建築家。近畿大学工学部建築学科准教授。

【雑 誌】

◇インタビュー 世界に前例のないプロジェクトへ(特集「構造の常識」の過去・現在・未来)(川口満,満田衛資,豊

川斎赫,永井佑季,藤田慎之輔)「建築雑誌」 日本建築学会 133(1712) 2018.6 p6～9

◇インタビュー ホリスティックなデザインへ(特集「構造の常識」の過去・現在・未来)(斎藤公男,満田衛資,永井佑季,藤田慎之輔)「建築雑誌」 日本建築学会 133(1712) 2018.6 p10～13

◇インタビュー コンピュータによる最適化と直観力(特集「構造の常識」の過去・現在・未来)(佐々木睦朗,藤村龍至,満田衛資,藤田慎之輔,永井佑季)「建築雑誌」 日本建築学会 133(1712) 2018.6 p14～17

◇インタビュー 2011年以降 変わったことと変わらないこと(特集「構造の常識」の過去・現在・未来)(金箱温春,満田衛資,門脇耕三,永井佑季,藤田慎之輔)「建築雑誌」 日本建築学会 133(1712) 2018.6 p18～20

藤田 嗣治 ふじた・つぐはる

1886(明治19)年～1968(昭和43)年。大正・昭和期の洋画家。展覧し,独自の様式により高く評価される。晩年は宗教壁画を制作。作品に「自画像」など。

【図 書】

◇ブレない生き方—自分に軸を通す(斎藤孝著) 光文社 2011.3 211p(光文社知恵の森文庫)

◇レオナルド・フジター私のバリ、私のアトリエ(ポーラ美術館監修) 東京美術 2011.3 109p

◇絵具と戦争—従軍画家たちと戦争画の軌跡(溝口郁夫著) 国書刊行会 2011.3 276p

◇藤田嗣治(つぐはる)本のしごと(林洋子著) 集英社 2011.6 253p(集英社新書ヴィジュアル版)

◇絵筆のナショナリズム—フジタと大観の(戦争)(柴崎信三著) 幻戯書房 2011.7 233p

◇フランスワイン33のエピソード(須藤海芳子著) 白水社 2011.10 198,8p

◇日本美術全史—世界から見た名作の系譜(田中英道著) 講談社 2012.4 579p(講談社学術文庫)

◇爆笑問題の日曜サンデー 27人の証言 TBSサービス 2012.6 206p

◇異端力のススメ—破天荒でセクシーな凄いきつら(島地勝彦著) 光文社 2012.9 225p(光文社文庫)

◇四百字のデッサン 新装版(野見山曉治著) 河出書房新社 2012.9 231p(河出文庫)

◇モンパルナスのエコール・ド・バリ(ジャン＝ポール・クレスベル著,藤田尊潮訳) 八坂書房 2013.7 237p

◇もっと知りたい藤田嗣治—生涯と作品(林洋子監修・著,内呂博之著) 東京美術 2013.8 95p(アート・ビギナズ・コレクション)

◇作家の住まい(コロナ・ブックス編集部編) 平凡社 2013.10 135p(コロナ・ブックス)

◇異郷—藤田嗣治画集(林洋子監修) 小学館 2014.2 127p

◇限定版・藤田嗣治画集ボックスセット(林洋子監修) 小学館 2014.2 3冊(セット)

◇追憶—藤田嗣治画集(林洋子監修) 小学館 2014.2 127p

◇巴里—藤田嗣治画集(林洋子監修) 小学館 2014.2 127p

◇あの道・この道(高峰秀子,瀬木慎一著) 河出書房新社 2014.11 210p

◇「かたち」再考—開かれた語りのために(東京文化財研究所編) 平凡社 2014.12 376p

◇藤田嗣治とは誰か—作品と手紙から読み解く、美の闘争史。(矢内みどり著) 求龍堂 2015.2 238p

◇戦争画リターンズ—藤田嗣治とアッツ島の花々(平山周吉著) 芸術新聞社 2015.4 422p

◇藤田嗣治—パリからの恋文(湯原かの子著) 新潮社 2015.7 315p

◇評伝藤田嗣治 改訂新版(田中穰著) 芸術新聞社 2015.8 342p

◇油彩への衝動(蛇川順子編) 中央公論美術出版 2015.9 329p

◇戦争と芸術—美の恐怖と幻影(飯田高誉著) 立東舎,リットミュージック(発売) 2016.3 287p

◇芸術家の愛した家—巨匠のルーツから読み解く美術入門(池上英洋著) エクストラレッジ 2016.12 125p

◇フジタの白鳥—画家藤田嗣治の舞台美術(佐野勝也著) エディマン 2017.1 427p

◇日本人のシンガポール体験—幕末明治から日本占領下・戦後まで(西原大輔著) 人文書院 2017.3 310p

◇「値段」で読み解く魅惑のフランス近代絵画(高橋芳郎著) 幻冬舎メディアコンサルティング,幻冬舎(発売) 2017.4 302p

◇有事資産防衛 金か? ダイヤか? (浅井隆著) 第二海援隊 2017.12 230p

◇1940'sフジタ・トリビュート(豊田歩実,笹川治子,林洋子編) フジタ・トリビュート・プロジェクト c2018 69p

◇没後50年藤田嗣治本のしごと—文字を装う絵の世界—展図録(藤田嗣治画,林洋子監修) キュレイターズ c2018 319p

◇藤田嗣治手紙の森へ(林洋子著) 集英社 2018.1 206p(集英社新書)

◇猪熊弦一郎のおもちゃ箱—やさしい線(小宮山さくら文,丸亀市猪熊弦一郎現代美術館監修) 小学館 2018.3 256p

◇なぜ日本はフジタを捨てたのか?—藤田嗣治とフランク・シャーマン1945～1949(富田芳和著) 静人舎 2018.5 267p

◇ソードがわかれば美術がわかる(布施英利著) 集英社インターナショナル,集英社(発売) 2018.8 250p(インターナショナル新書)

◇藤田嗣治(フジタ)がわかれば絵画がわかる(布施英利著) NHK出版 2018.8 253p(NHK出版新書)

◇藤田嗣治作品集(清水敏男著) 東京美術 2018.8 191p

◇藤田嗣治戦時下に書く—新聞・雑誌寄稿集1935～1956年(藤田嗣治著,林洋子編) ミネルヴァ書房 2018.8 312,18p

◇猫と女とモンパルナス—藤田嗣治 オクターブ 2018.9 198p

◇蓑谷虹児—乙女たちが愛した抒情画家(鈴木義昭著) 新評論 2018.9 267p

◇旅する画家藤田嗣治(林洋子監修) 新潮社 2018.9 142p(とんぼの本)

◇猫と藤田嗣治(内呂博之監修,浦島茂世文,荒堀みのりエコ研究者) エクストラレッジ 2019.4 125p

◇オリンピック それはフランスから始まった—よもやまパリと柔道人生回顧録(福田満著) 渡辺出版 2019.6 258p

◇裏切られた美術—表現者たちの転向と挫折1910・1960(足立元著) ブリュッケ,星雲社(発売) 2019.6 318p

◇われら軍人の子—上皇陛下、フジタ、そして僕(石光勝著) 中央公論新社 2019.7 270p

◇昭和史講義 戦前文化人篇(簡井清忠編) 筑摩書房 2019.7 302p(ちくま新書)

◇歴史と文学—歴史家が描く日本近代文化論(成沢栄寿著) 花伝社,共栄書房(発売) 2019.7 482,12p

◇画家たちの戦争責任—藤田嗣治の「アッツ島玉砕」をと

美術家文献目録 日本篇 2011-2025

2026 年 10 月 25 日 第 1 刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／シナノ印刷株式会社

©Nichigai Associates, Inc. 2026

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-3121-5

Printed in Japan, 2026

本書はデジタルデータを有償販売しております。
詳細はお問い合わせください。